

つるかしま里山サポートクラブ 活動報告書（令和8年度）2026年

活動日時	月	日	曜日	開始	終了	場 所	会員参加数
	2	14	土	9:00	12:00	太田ヶ谷の森	10名
活動名称	太田ヶ谷の森 植樹活動					報告者：吉井 優	

1. 活動目的

太田ヶ谷の森では、2021年から、里山体験会イベントで子どもたちと植樹活動を行ってきました。また、子どもたちに喜んでもらえるように、ヤマモモやキイチゴなど、里山の恵みをいただける樹種を植樹してきました。ところが2023年に、大切にそだてていたキイチゴやツツジなど数十本の樹木が、市役所の指示で伐採されてしまいました。そこで、太田ヶ谷での植樹活動をあきらめて、高倉市民の森内の市有地に了解を得て、里山恵みの森を再開できるよう植樹活動を始めました。しかし、今度は、高倉市民の森のほとんどが売却された結果、子どもたちが市有地に入りづらくなり、再度太田ヶ谷で里山恵みの森にチャレンジすることになりました。

2. 活動内容ほか

当初は、大谷川の北側銀杏植樹地の隣に植樹するつもりでしたが、朝、現場に行くと、地面が凍っているようで、植樹には適さないという判断となりました。なお、南側に植樹したクヌギが大きく育っているが、北側に植えたクヌギは、ほとんど育っていないか枯れています。そういうわけで、数年前にミカンを植えて失敗した南側の土地に植樹することにしました。

その現場は、接ぎ木したミカンの台木であったカラタチと前から生えていたニセアカシアがあり、トゲトゲ広場状態でした。ニセアカシアを伐採し、カラタチは、気に入った方がおり、このまま育てることになりました。この現場には、鶴ヶ島市の市の木である黒松3本と、6月に美味しい実がなるヤマモモ2本、アク抜き不要で生殖食可能なドングリが実るスタジイ3本を植えました。キイチゴ28本と、マタタビ20本は、まだ幼い苗木のため、大きくなるまで苗床で育てることになりました。

3. 評価

鶴ヶ島市の木は、松ですが、太田ヶ谷の森には、一本もありませんでした。今回3本植えましたので、市の象徴として、大事に見守ってほしいです。今回は松の周りに防御に割った竹で囲い、さらに、植樹活動用地をトラロープで囲っています。不用意に伐採されることがないことを願います。

4. 課題

昨年から植木の購入は地元でお金を回したいとの思いで、比留間園芸さんにお願いしてきました。比留間園芸さんは、花屋さんのため、樹木は不得意のようです。花屋のネットワークでは、キイチゴやマタタビは、希望した数千円で1mほどの苗木は、入手できず、数百円の幼木しか購入できませんでした。残念ながら来年は、また花園の苗木市場で探すことになりそうです。

<里山参加会員>

小嶋、阿部、小沼、牛島、内藤、石榑、金、柳川、佐野、（撮影；吉井）

＜活動写真＞

